

憲法しんぶん 速報版
 発行 憲法改憲阻止各界連絡会議 (憲法会議)

Eメール mail@kenpoukaigi.gr.jp TEL03-3261-9007
 ホームページ http://www.kenpoukaigi.gr.jp FAX03-3261-5453

2019年10月11日 (金)

NO. 1003号

本号3頁

憲法共同センター9の日宣伝行動

今こそ3000万人署名で安倍9条改憲の危険性を訴える時！

第200回臨時国会が始まり、冒頭から安倍首相は憲法改正を主張し、何と、大島衆院議長が萩生田氏の議長更迭発言に屈服したのか、「国民投票法改定案は約2年間議論している」「この臨時国会で結論を出してほしい」と発言。臨時国会冒頭から改憲問題で大混乱。

そのような中、憲法共同センターの9の日行動が、お昼に新宿駅西口で行われました。次々と弁士が宣伝カーの上から、「安倍政権が固執する9条改憲を食い止めましょう」と呼びかけ、安倍9条改憲に反対する3000万人署名への協力を呼びかけました。

最初に訴えたのは、本村伸子・日本共産党衆院議員。衆院憲法審査会の委員である本村氏は臨時国会で改憲論議を強行しようとする安倍政権を批判し、「市民と野党が力を合わせ、臨時国会では、安倍政権を包囲し、改憲論議を許さず、9条改憲を阻止しよう」と訴えました。

その後、全労連の小田川議長や、民医連、自由法曹団、全商連等の代表から、「安倍改憲阻止に向けて力を合わせよう」

「3000万人署名にご協力を」等と憲法改憲阻止に向けた訴えとともに、「米国からの武器爆買いで5.3兆円に達した防衛費を削減させよう」、「消費税増税で中小業者が大変、前の税率を戻させよう」等との訴えが行われました。

この9の日行動には、前参院議員の仁比聡平氏も参加し、署名板を持って、懸命に3000万人署名への協力を呼びかけていました。この日は、いつも以上に多数の方が足を止め、署名に協力。署名しながら、「安倍さんがあんなにひどい事をしても平気な顔をしている。もっと、国民は怒らなければいけない」等と話していました。

この行動で91人が署名に協力してくださいました。12人の署名を集めた憲法会議の高橋は、「あっ、この多い署名国民が臨時国会冒頭からの安倍改憲の動きに危機感を感じているからだ」と感じました。そういえば、憲法会議のポスターや憲法講座のDVDや特集した月刊憲法運動の注文が7日からどっと増えたことと同様だと思いました。まさに、今こそ、3000万人署名の出番「今、今こそ、3000万人署名でたたかう時」と感じた署名行動でした。

憲法共同センター 自民党改憲4項目批判学習会を開催！

憲法共同センターは7日夜、改憲問題対策法律家6団体連絡会事務局長の大江京子弁護士を講師に、自民党が憲法審査会で提示を狙う改憲案についての学習会を開催しました。

大江氏は、自民党の改憲4項目の危険性や問題点について詳しく解明しました。自衛隊の明記については、9条2項が無力化しアメリカの世界戦略のために普通に戦争できる国になってしまうと批判しました。そして、「憲法改正の前提となる国民の世論は、改憲を全く望んでいない」と強調し、社会保障や働く権利、表現の自由も日米貿易交渉などをあげ「どれだけ違憲状態にあるのか、国会で議論することが国民の願いだ」と述べました。

講演後、フロアから日本共産党憲法問題責任者の仁比聡平前参院議員が発言し、改憲4項目の「合区解消」論などを批判し、改憲阻止に向け全力を尽くすと述べました。



萩生田氏の議長更迭発言に屈服したのか！大島衆院議長、 臨時国会で「国民投票法改定案の結論を」と発言！

憲法改正手続きを定めた国民投票法改正案の今国会成立を求めた大島理森衆院議長の発言をめぐり、国会は論戦初日の7日から紛糾しました。野党は「安倍首相の憲法改正を後押ししているのではないかと反発し、態度を硬化。代表質問を行う衆院本会議の開始時間がずれ込む事態に発展したのです。

大島氏は5日、青森県八戸市での自らの政治資金パーティーで、「国民投票法改定案は約2年間議論している」「この臨時国会で結論を出してほしい」と発言しました。改憲勢力の3分の2割れを招いた国民の審判を無視し、安倍首相が所信表明演説で「理想を議論すべき場こそ憲法審査会」「しっかり議論しよう」と呼びかけた直後に、これに呼応しようとする発言です。

野党側は同日の衆院議院運営委員会理事会で大島議長の謝罪と発言の撤回を要求。発言の真意をたどりましたが、大島氏は「合意の努力をしてほしいという趣旨だ」「与党にくみするつもりで発言したわけではない」などと述べただけで、撤回や謝罪には応じませんでした。

そのため、大島氏が開会のベルを押す本会議に反対。衆院議運委員会では野党側委員がそれぞれ議長の発言を批判。日本共産党の塩川鉄也議員は、「国会に提出されている議員立法は50本以上にわたる。国民投票法改定案だけ取り上げるのは道理がない。しかも、大島氏の発言は「与党の説明そのものだ」と指摘し、「野党はこの法案を欠陥法案だと批判している。与党中心の法案を前提に国会での合意を求めることは、与党にくみする姿勢そのものだ。発言の撤回と謝罪を」と批判しました。

そして、与野党国対委員長会談では「大島氏に特定の法案に言及するのはふさわしくないと伝えてほしい」と要請し、最終的に本会議開会に応じました。

立憲の安住淳国対委員長は記者団に「(大島氏は)与党国対委員長のつもりではないか。中立ではない」と指摘しました。代表質問でも立憲の枝野幸男代表は冒頭で、「議会運営全体に責任を持つ議長が政治的に注目されている重要法案について、時期を区切って合意を期待する発言は越権だ」と語り、真後ろの議長席に座る大島氏を厳しく批判しました。

国対経験が長い大島氏をめぐっては、自民党内に「野党に配慮しすぎている」との不満もあり、7月に当時の萩生田光一幹事長代行が議長更迭に言及、波紋を広げました。

特別寄稿

女性や若者を中心に拡大する非正規労働 人間らしく暮らせる社会に

＜全国生協労働組合連合会 書記次長 真壁隆＞

「埼玉で人並みの生活をするためには月収50万円必要」という記事が掲載され、話題になりました。埼玉県で最低生計費（憲法25条で保障された「健康で文化的な生活」に必要な生計費）試算調査が実施され、30代夫婦と子ども二人世帯で人並みに生活するには、月収50万円ほどかかるという調査結果が公表されたという記事です。この記事に対する様々な世論の反応は、「そんなにかかるわけがない」「いやそれぐらいかかっても当然だ」など賛否両論ありました。中でも最も興味深かったのが、野原ひろしエリート説です。野原ひろしとは、漫画クレヨンしんちゃんの主人公の父親ですが、この作品の舞台は、埼玉県に住む30代夫婦で、子どもが二人いるという設定で、生計費試算調査の世帯モデルと合致していました。

1990年代から始まった漫画では、しんちゃん一家は決してエリートではなく、庶民として描かれていますが、結婚して持ち家で車を所有し、二人の子どもがあり妻は専業主婦です。この暮らしぶりだと現在ではエリート層にならないと実現できないと思いますが、ひろしさんが妻子に「この安月給」とバカにされるシーンがあります。当時のひろしさんのお給料は手取りで30万円となっていましたから、それで安月給だったなんて、今では考えられませんか。

90年代の国勢調査では40代男性の7割が結婚していて子どもがいました。ところが現在では5割を下回っています。結婚し、子どもを持つことは、だんだんとできなくなっているのです。仕事

をしているのに当たり前生活ができない、家族が持てない、子どもを持つなんて贅沢だなんて、おかしいと思いませんか。「ふつう」の意味合いがこの20年から30年で大きく変化してしまい、「ふつう」の基準がどんどん下がってきているのです。

今日本では、女性や若者を中心に、非正規労働が拡大しています。「ふつう」どころか「健康で文化的な生活」ですら程遠いのが現実です。日本国憲法をいかし、労働法と社会保障制度を抜本的に改善し、男性も女性も、すべてのジェンダーが人間らしく暮らせる社会にすることが必要です。

各地のとくくみ

沖縄 「米軍に港使わせぬ」と本部町で町民集会

米海兵隊が今月中旬に沖縄県本部町の民間港を使用する可能性があるとの報道を受けて8日夜、同町で緊急町民集会が開かれました。「米軍は使うな」と書かれたオレンジの鉢巻きを身につけた参加者150人が拳を振り上げて「頑張ろう！」と三唱し、港の軍事利用を拒否する決議を採択しました。

米軍は提供外施設での利用を狙い、9月17日には、伊江島補助飛行場（伊江村）での訓練を理由に、本部港から伊江島への出航を計画。しかし、県民と港湾労働者らの強い抗議で断念させました。

集会実行委員会代表の上間一弘さん（79）は「本部ではかつて、P3C基地建設をはねのけた。本部には絶対に米軍艦は入れない決意で頑張りましょう」と呼びかけました。

本部町島ぐるみ会議の仲宗根須磨子共同代表（町議）らが報告。仲宗根氏は「沖縄県民が一枚岩となれば、きっと米軍のやりたい放題は止められる。基地問題の解決の糸口が見えてくる」と述べました。伊江島とともに連携していきたいとの発言もありました。

参加した町在住の女性（67）は「米軍の使用を阻止した日は興奮して寝られなかった。子どもや孫たちの未来のために頑張るのがおとなの責任です」と話しました。

富山 富山駅前でウソと隠ぺいの安倍内閣退陣を求める集会とデモ行進

富山県の安保破棄実行委員会と国民大運動実行委員会は、臨時国会の審議が本格化した8日昼、富山駅前でウソと隠ぺいの安倍内閣退陣を求める集会とデモ行進を行いました。激しい雨の中、40人が参加しました。

はじめに、主催者を代表して増川利博県労連議長が挨拶し、「安倍首相は令和の新時代にふさわしい憲法をと自ら改憲を叫び、ごり押ししようとしている。国会議長まで、臨時国会で改憲の国民投票法改定案の成立を図ろうとしている」と、安倍政権を糾弾しました。

集会後に駅前繁華街をデモ行進。参加者は「消費税増税反対」「憲法改悪絶対反対」などとコールしながら、道行く人に訴えました。デモ行進後、参加者は「ガンバロウ」を三唱して、安倍内閣の退陣を誓いあいました。

